

## 大規模災害(地震発生)時のさつき自治会対応手順 (2024年12月版)

日本では毎年のようにさまざまな災害が発生しています。普段からの備え、十分な対策が大切ですが、ひとたび大規模災害が発生すると、個人や家族の力だけでは限界があり危険や困難を伴う場合があります。このような時、毎日顔を合わせている隣近所の人達が互いに協力し合い、防災活動に組織的に取り組むことが必要かと思えます。

大規模災害発生時は、まず自分の身の安全を確保することから始まり、行政機関や防災組織の活動がスタートするまでの間、地域住民同士で協力して災害に対応することになります。被害を最小限にとどめるために、大規模災害時における一連の行動を以下の対応手順で確認できればと思います。

### ◆安否確認

#### 大規模災害(地震発生)後すぐの行動

- ◇地域の住民の安否を確認し、家具転倒による挟まれやドア等の変形で居室内に閉じ込められている等、動けない状態になっていないか地域ぐるみで確認しましょう。
- ◇ご家族にけが人もなく救助や確認が必要ない場合、または全員で避難所に移動される場合は、安否確認の「黄色の札」を玄関、門扉など外から見える位置に表示しましょう。

#### さつき自主防災部中心の活動

(さつき自主防災部…さつき自治会の役員・班長で構成された防災組織)

- ◇「黄色の札」の表示が無い世帯を訪問、安否確認を行い、無事が確認できれば「黄色の札」を表示。安否確認が取れなかった世帯を記録。
- ◇天蓋の花公園(北杵掛町第二公園)で未確認世帯の情報を集約。
- ◇安否確認が取れなかった世帯については再度訪問確認。
- ◇自身で避難することが困難なお宅を把握している場合は、「黄色の札」の表示がなく呼びかけに応答がない時、消防署・警察署等に相談。

※安否確認の「黄色の札」の保管場所を決め、いざという時に使用できるようにしましょう。

※「黄色の札」をお持ちでない方は担当班長、またはさつき自治会長までご連絡ください。



安否確認の  
「黄色の札」

### ◆救助・消火活動

大規模災害が発生した場合、公的機関(消防・警察)の救助隊だけでなく、地域内での助け合いが重要です。家が倒壊し、中に住民が取り残されている場合は、さつき自治会館横の防災倉庫内にある防災資機材等を活用して救助活動を行いましょう。

## ◆在宅避難者支援

避難する必要がなく、家に住むことができる世帯についてライフラインや物流が復旧するまでの間、自治会としての支援を行います。

・地域防災拠点等からの情報（物資、ライフライン等の状況）の掲示。

※「さつき自治会館前」ならびに「季美が丘公園」の掲示板など

・その他、各世帯において必要な支援が発生した場合、可能な範囲で支援。

### 大規模災害(地震発生)時における一連の行動

1. 自分の身の安全確保・家族の安否確認
2. 出火防止措置
3. 安否確認『黄色の札』の掲出
4. 地域の集合場所<天蓋の花公園>へ（情報収集）
5. さつき自主防災部で情報共有（黄色の札掲出状況を各班で集計）
6. さつき自主防災部と住民が協力のうえ消火・救出・救護活動
7. 指定避難場所<桂坂小学校>へ移動（避難が必要な住民）
8. さつき自主防災部中心に在宅避難者の支援

### <各機関の連絡先>

- ◎ 西京消防署 電話:392-6071  
（洛西消防出張所:332-0683）  
（火災・急病のとき:119）
- ◎ 西京警察署 電話:391-0110  
（大枝交番:331-2896）  
（犯罪・事故のとき:110）
- ◎ 京都市防災危機管理室 電話:222-3210
- ◎ 西京区役所洛西支所（地域力推進室 総務・防災担当）電話:332-9185
- ◎ 上下水道局 電話:672-7770
- ◎ 西日本電信電話(株) 電話:113
- ◎ 関西電力(株) 電話:0800-777-8031
- ◎ 大阪ガス(株) 電話:0120-819-424

### ※参考資料

京都市自主防災部活動ファイル  
にれのき自治会 防災マニュアル

# さつき自主防災部 活動の基本的な考え方

震度 5 強以上の地震発生時、または防災部長(さつき自治会長)が必要と認めた場合、防災部メンバー(さつき自治会役員・班長)は自分の身の安全を確保した上で、災害情報の収集、伝達、住民の安否確認活動を実施します。但し、防災部担当者が全てを行うのではなく、住民と協力して分担しながら活動できる体制を目指します。

※防災部メンバー…「さつき自治会しおり」に記載

## 防災部長(会長) 防災副部長(副会長)

災害発生時には、自主防災組織を適切に指導し、率先して行動します。地域の安全点検、防災知識の普及、防災資機材の整備、危険が予想される箇所や自力で避難することが困難な災害弱者の把握、防災訓練の指導などを行い、日頃から住民の防災意識を高めることに努めます。

## 情報班

情報の収集及び伝達 ～情報は正確にすばやく伝達～

行政や消防機関からの災害情報や指示を正確かつ迅速に伝え、自分の地域の被害状況や避難状況をいち早く収集し、自主防災本部へ報告します。なお、デマやパニックを防ぐため、不確かな情報は行政や消防署、ラジオやテレビで確認します。

## 消火班

出火防止、初期消火 ～火が出たらすぐ消火～

地震が発生したときに恐ろしいのは火災です。自主防災組織では、日頃から地域ぐるみで火を出さないように徹底させるとともに、火が出たら速やかに消火活動を行います。

## 救出救護班

救出救護 ～救出救護はすみやかに～

大きな災害が発生すると、建物の倒壊や落下物などによって多くの負傷者が出ます。自主防災組織では資機材を有効に使い、これらの人の救出作業を行い、必要がある場合は消防機関などに出動要請をします。また、負傷者の応急手当を行い、医療機関や救護所に搬送します。

## 避難誘導班

避難誘導 ～落ち着いてみんなで避難～

避難情報を地域内の住民に正確かつ迅速に伝達し、混乱なく、安全に住民全員が避難できるように避難場所へ誘導します。

## 給食給水班

給食給水 ～水・食料はみんなでわけあって～

飲料水を確保し、食料品の救援物資のスムーズな受入れ、配給を行います。